

# 竹井澹如の没後 100 年、そして新たな時代へ。

## 竹井澹如【たけいたんじょ】

1839～1912 年

平成24年、竹井澹如の没してから100年の時が経過しました。澹如は、天保10年(1839)群馬県甘楽郡南牧村羽沢の豪族市川家に生まれました。幼名を萬平(まんぺい)といい、幽谷(ゆうこく)と号しました。熊谷宿の本陣竹井家を継ぎ、竹井家の14代当主となりました。

政治に深く関心があり、地方実力者の養成に努め、中央政界の大隈重信、板垣退助、陸奥宗光らとも親交があり、陸奥宗光に働きかけて熊谷県誕生に尽力したことで有名です。教育面でも渋沢栄一らと協力し、育英事業にも貢献しました。初代の県議会議長となり、産業・土木面でも大きな功績を残しました。

澹如は、慶応年間に鎌倉町に別邸を置き、池亭と回遊式庭園を設けました。ここには、昭憲皇太后や大隈重信、徳富蘇峰などの名士が来遊し、現在は市指定名勝「星溪園」となっています。また、荒川の氾濫を防ぐため万平出しを築き、現在もその形跡が残されています。その地は万平公園(万平町)となり、その園内には、澹如の功績を讃えた市指定史跡「竹井澹如翁碑」(左写真)を見ることができます。

大正元年(1912)、澹如は、73歳で永眠し、熊谷寺に葬られました。その後、墓地は市内大原に移動され、「竹井澹如墓」は市指定史跡となりました。今でも多くの参拝者が訪れています。



若かりし日の澹如

# 星溪園と澹如

## 星溪園の由来

元和9年(1623)、荒川の洪水により当園の西方にあった土手(北条堤)が切れて池ができました。

その池には清らかな水が湧き出るので、「玉の池」と呼ばれ、この湧き水が星川の源となりました。のちに澹如翁が、その場所に別邸を設け、「玉の池」を中心に木竹を植え、名石を集めて庭園としました。

明治17年(1884)に時の皇后(昭憲皇太后)がお立ち寄りになり、大正10年(1921)には秩父宮がお泊りになるなど、知名士の来遊が多く見られました。

本ギャラリーのある積翠閣は、当初、昭和5年澹如翁の長男耕一郎氏により建てられたものでした。高床式の建物で、和室と洋室からなり、月見台もあり、庭園の眺望が一段と高められ、静かな情緒を味わえます。

昭和25年熊谷市が譲り受け、昭和29年市の名勝として指定されました。建物の老朽化が著しかったので、平成2年から4年にかけて建物と庭園の整備がなされ、建物は数奇屋感覚を取り入れ、格調高いものとし、日本的文化教養の場として復元されました。



## 中山道と本陣跡

本町1丁目の南側で、江戸時代参勤交代の折の大名や当時の上流階級の人々が、旅先で利用した竹井本陣と呼ばれる休泊所の跡。本町1丁目の西端にありました。敷地1600坪、建坪700坪、47部屋あり国内最大規模であったが明治の火災と、戦災で失われてしまいました。現在は市指定史跡として石標が置かれています(右写真)。星溪園から国道17号を東に進んだ場所にあります。

